

東西対抗形式によるV争い

第73回高松宮記念杯競輪は、6月16日、19日の日程で岸和田競輪場に於いて開催される。ダービー王・脇本雄太の名前がないのは残念ながらSS班8名をはじめとして、全国各地から強豪が集結するだけに、見ごたえのある優勝争いが繰り広げられるのは間違いない。概定番組は東西対抗形式で、勝ち上がり戦は東西に分かれて戦う。他のGIでは見られないメンバー構成となるので、興味溢れるシリーズだ。

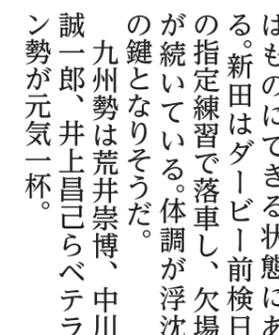
ワールドクラスの豪脚を遺憾なく発揮してダービー2V目をゲットした脇本雄太が不在。優勝のゆくえは混沌としている。どこからでも狙えそうだが、本命には松浦悠士を推した。安定感の高さは相変わらずで、ビッグレースでは全日本選抜、ウイナーズカップで準

V、G3は2月奈良、4月川崎で優勝を飾っている。今年の連対率は7割に迫る勢い。盟友の清水裕友、今年はビッグレースで連係実績が豊富な太田竜馬ら中四国勢は総合力でも上位。高松宮記念杯初Vに向けて視界は良好だ。昨年に続きウイナーズカップ連覇を達成した後は、1カ月半実戦を離れた清水だが、復帰戦のダービー、5月函館記念と決勝に乗って調子に問題はない。今年の太田は自慢の快速をコンスタントに発揮できている感があり、勝率は約50%。昨年の約26%を大きく上回っている。先導役だけにとどまらない。この大会に最も強い思い入れがあるのは地元古性の優作だろう。7回参戦してまだ決勝に乗れていないが、昨年のオールスターで優勝する前の成績なので参考にはなるまい。今年は全日本選抜で優勝すると、ウイナーズカップ、ダービーは危なげなく決勝に乗って、ビッグレースで安定した成績を残している。5月宇都宮記念、全プロ記念競輪の動きは今一つだった

が、確実に調子を上げて挑んでこよう。今年の滑り出しは今一つだった稲川翔だが、最近伸びがよい。ダービーの二次予選では脇本雄太の逃げを差し切っている。この大会は14年にVの実績もある。



古性優作
今年、勝率高い郡司浩平と競った。今年、勝率高い郡司浩平と競った。今年、勝率高い郡司浩平と競った。



平原康多
有力な優勝候補だ。5月末までにG3の2Vを含み19勝して勝率は約46%。この大会は16年に準Vがあるものの、その後は人気以下の成績に終わることが多いので、そろそろ流れを変えたいところ。連係実績が豊富な深谷知広とのタッグでVを睨む。その深谷はダービーの初日特選で逃げ切るなど、自力攻撃の破壊力は相変わらずだ。

関東勢は平原康多、吉田拓矢、宿口陽一のSS班3名をはじめとしてビッグレースで先行力を猛アピールしている眞杉匠、ベテランならではの安定プレーを演じている諸橋愛とそろって来る。大将格の平原は順調にきている。今年はG3で3V、全日本選抜、ダービーでは危なげなく決勝進出を果たした。吉田は5月宇都宮記念で今年G3の2V目をゲットと乗れているし、眞杉はダービーで2年連続の決勝進出、全プロ記念①②着とパワーアップ。関東勢から優勝者が出る場面は大いにありそうだ。

北日本勢も佐藤慎太郎、新田祐大、成田和也、新山響平と実力者ぞろい。佐藤はダービーで準Vと吐いたばかりで、勝機が巡ってこればもののできる状態にある。新田はダービー前検日の指定練習で落車し、欠場が続いている。体調が浮沈の鍵となりそうだ。九州勢は荒井崇博、中川誠一郎、井上昌己らベテラン勢が元氣一杯。



主力メンバー ※2022年6月6日現在

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	直近12場所成績	3連率	連年連覇
SS	佐藤慎太郎	福島	78期	117.53	①③⑤⑥	26	13
SS	平原康多	埼玉	87期	119.00	①③④⑤	25	13
SS	宿口陽一	埼玉	91期	110.83	①③④⑤	25	13
SS	郡司浩平	神奈川	99期	116.00	①③④⑤	25	13
SS	吉田拓矢	茨城	107期	116.53	①③④⑤	25	13
SS	松浦悠士	広島	98期	117.58	①③④⑤	25	13
SS	古性優作	大阪	100期	117.88	①③④⑤	25	13
SS	清水裕友	山口	105期	115.44	①③④⑤	25	13
S1	諸橋愛	新潟	79期	114.25	①③④⑤	25	13
S1	齋藤登志信	宮城	80期	103.82	①③④⑤	25	13
S1	佐々木雄一	福島	83期	107.22	①③④⑤	25	13
S1	大槻寛徳	宮城	85期	110.85	①③④⑤	25	13
S1	和田健太郎	千葉	87期	111.72	①③④⑤	25	13
S1	大森慶一	北海道	88期	107.23	①③④⑤	25	13
S1	成田和也	福島	88期	115.10	①③④⑤	25	13
S1	山崎芳仁	福島	88期	109.74	①③④⑤	25	13
S1	渡邊一成	福島	88期	109.63	①③④⑤	25	13
S1	武田豊樹	茨城	88期	106.64	①③④⑤	25	13
S1	菊地圭尚	北海道	89期	111.19	①③④⑤	25	13
S1	渡部幸訓	福島	89期	109.54	①③④⑤	25	13
S1	内藤秀久	神奈川	89期	110.00	①③④⑤	25	13
S1	松坂洋平	神奈川	89期	110.26	①③④⑤	25	13
S1	飯野祐太	福島	90期	108.00	①③④⑤	25	13
S1	新田祐大	福島	90期	114.60	①③④⑤	25	13
S1	芦澤大輔	茨城	90期	100.73	①③④⑤	25	13
S1	田中晴基	千葉	90期	105.04	①③④⑤	25	13
S1	永澤剛	青森	91期	107.75	①③④⑤	25	13
S1	神山拓弥	栃木	91期	113.15	①③④⑤	25	13
S1	和田圭	宮城	92期	110.64	①③④⑤	25	13
S1	木暮安由	群馬	92期	113.21	①③④⑤	25	13
S1	鈴木裕	千葉	92期	112.37	①③④⑤	25	13
S1	岩本俊介	千葉	94期	108.51	①③④⑤	25	13
S1	根田空史	千葉	94期	104.15	①③④⑤	25	13
S1	芦澤辰弘	茨城	95期	107.45	①③④⑤	25	13
S1	小原太樹	神奈川	95期	108.21	①③④⑤	25	13
S1	雨谷一樹	栃木	96期	107.40	①③④⑤	25	13

岸和田GI 出場予定選手 ※2022年6月6日現在

級班	氏名	登録地	期別	競走得点	直近12場所成績	3連率	連年連覇
S1	橋本強	愛媛	89期	107.85	①③④⑤	25	13
S1	山田英明	佐賀	89期	106.66	①③④⑤	25	13
S1	浅井康太	三重	90期	115.88	①③④⑤	25	13
S1	稲川翔	大阪	90期	113.76	①③④⑤	25	13
S1	村田雅一	兵庫	90期	108.42	①③④⑤	25	13
S1	阿竹智史	徳島	90期	110.45	①③④⑤	25	13
S1	小川勇介	福岡	90期	109.76	①③④⑤	25	13
S1	北津留翼	福岡	90期	108.88	①③④⑤	25	13
S1	山田久徳	京都	93期	109.57	①③④⑤	25	13
S1	山田庸平	佐賀	94期	112.23	①③④⑤	25	13
S1	坂口晃輔	三重	95期	109.78	①③④⑤	25	13
S1	久米良	徳島	96期	107.87	①③④⑤	25	13
S1	中本匠栄	熊本	97期	112.00	①③④⑤	25	13
S1	原田研太郎	徳島	98期	108.46	①③④⑤	25	13
S1	神田紘輔	大阪	100期	111.04	①③④⑤	25	13
S1	三谷竜生	奈良	101期	110.91	①③④⑤	25	13
S1	谷口遼平	三重	103期	105.29	①③④⑤	25	13
S1	野原雅也	福井	103期	107.91	①③④⑤	25	13
S1	中西大	和歌山	107期	106.48	①③④⑤	25	13
S1	取島雄吾	岡山	107期	106.84	①③④⑤	25	13
S1	小川真太郎	徳島	107期	109.72	①③④⑤	25	13
S1	太田竜馬	徳島	109期	114.78	①③④⑤	25	13
S1	島川将貴	徳島	109期	110.38	①③④⑤	25	13
S1	松本貴治	愛媛	111期	103.11	①③④⑤	25	13
S1	宮本隼輔	山口	113期	109.15	①③④⑤	25	13
S1	嘉永泰斗	熊本	113期	111.95	①③④⑤	25	13
S1	岩谷拓磨	福岡	115期	107.39	①③④⑤	25	13
S1	町田太一	広島	117期	110.00	①③④⑤	25	13
S1	石原颯	香川	117期	110.69	①③④⑤	25	13
S1	松岡健介	兵庫	87期	108.22	①③④⑤	25	13
S2	伏見俊昭	福島	75期	109.52	①③④⑤	25	13
S2	金子幸央	栃木	101期	107.00	①③④⑤	25	13
S2	隅田洋介	栃木	107期	110.70	①③④⑤	25	13
S2	吉田有希	茨城	119期	108.18	①③④⑤	25	13
S2	小岩大介	大分	90期	106.40	①③④⑤	25	13
S2	岡崎智哉	大阪	96期	107.00	①③④⑤	25	13



記者の

イチ押し!

高松宮記念杯競輪 編



小山 記者



三谷竜生



吉田有希

吉田有希がG1初登場。昨年7月の本格デビューから破竹の18連勝でS級へ駆け上がり、S級でもすでに6回の優勝を飾っているが「パターンを読まれて力を出し切れないこともある」と、いまは壁にもあたっている。取手記念に参戦した際は「力を出し切るレースがしたい。最近は若手らしいフレッシュな走りが出ていたし、反省点を踏まえ、持ち味を生かせるように。びびっていたら始まらない」と現状を見つめ直してきた。20歳で今大会の最年少出場者がラインの先頭で力を出し切る。

18年の当大会を制している三谷竜生に力強さが戻ってきた。「タイトルを獲得した時は、もともと(体が)楽な感じがあったんですよね。自分でやっても、人の後ろについていても」と当時との体感差を語ってくれた。それでも「今の方が(当時よりも)練習のタイムが上がっている。ウエイトトレーニングもやって増量したりして、常にG1の決勝に出てタイトルを獲得することを目標にやっている」と常に高い意識を持って練習に臨んでいる。全日本選抜、日本選手権とG1を席巻する近畿旋風の勢いに乗る。



竹内 記者



金子幸央



岩谷拓磨

岩谷拓磨は前々回の高知で3連勝。遅まきながら待望のS級初優勝を遂げた。

「通過点だけど、勝ちたいっていう気持ちのまま去年(決勝で)5、6回失敗した。まだ取ってないんかって言われて、気にもなっていた。それがなくなる」

G1初出場だった5月ダービーが⑧④⑧着も、岩谷にとっては大きな糧になっているようだ。師匠は言わずと知れた11度のタイトル制覇がある吉岡稔真(65期、引退)。師匠、G1を制している兄デシラのアドバイスでタイトル戦線のスタート台に立った岩谷が、2度目のG1でどこまでやれるか。その存在をアピールしたい。

5月の宇都宮記念を3②③②着。地元での記念初優勝こそかなわなかった金子幸央だが、進化が見てとれた。決勝では真杉匠の番手から、中川誠一郎のまくりをブロック。空いたコースを踏んだ吉田拓矢にVを譲ったが、対応力が光った。東西に分かれた勝ち上がりシステムなら真杉、坂井洋との連係も十分にチャンスが巡ってきそう。



細川 記者



吉澤純平



荒井崇博

「特別の決勝に乗らなきゃと思っっているしそれだけを考えてやっている」とダービーで見事に決勝進出を果たした荒井崇博。続く佐世保の全プロ記念競輪ではスーパードライブで優勝し、賞に勝ち上がり、「チャンスはあったね。最後は待つて中だったかもしれない。ただ戦えるね、このクラスでも。高松宮記念杯が楽しみやね」と確かな手応えをつかんでいる。13年に決勝に乗っている相性良い大会で、舞台は同じ岸和田競輪場。本番当日までにさらに磨き上げる決め脚でG1連続優出へ突き進む。

「ここ最近では自転車やセッティングを色々試していて結果的にダメだったので、5月の大垣で4、5年前のフレームに戻したら良くなった」と吉澤純平はキレが戻ってきている印象。「関東は若手の強い機動力型がそろってきている。脚力はもちろんですけど、番手を回る機会も増えてきますし、対応力だったり番手技術の精度を上げてチャンスを生かせるようにしたい」と全プロ記念競輪ではしっかりと番手で若手の機動力をサポートしながら連勝。取手記念でV。勢いそのままにG1戦線でも存在感を放つ。



権田 記者



渡邊雄太



佐々木悠葵

まだまだそのポテンシャルを持って余しているようなところもある佐々木悠葵。それだけにすべてがみ合った時の爆発力は、底知れないものがある。G1デビューとなった昨年8月のオールスターでは、初戦で失格の憂き目を見た。しかしながら、2度目のG1の競輪祭では準決までコマを進めて、あわやのシーンをつくって4着。レース全体のスピードが上がる極限の勝負でこそ、真価が発揮できるタイプ。リズムにさえ乗れば、G1ファイナルの舞台まで駆け上がれるだけの力は秘めている。

渡邊雄太は3月にF1を連続V。5月のダービーでも上々の動きを披露したが、最終日にゴール後落車で怪我を負った。

「(怪我は)右手首の骨折です。練習はしっかりやれていたし、意外と大丈夫かと」

その言葉通り、前回の全プロ記念の初日では果敢に主導権。清水裕友ら別線を不発にした。怪我明けだった全プロ記念からの上積みもありそう。深谷知広らと近況あまり元気がない南関東勢を盛り立てる。